

令和6年10月11日

保護者各位

鳥栖市立基里小学校
校長 下川路 隆之

令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要について（お知らせ）

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果が文部科学省から公表されましたので、その調査結果をもとに本校の結果について分析をしました。結果の概要についてお知らせします。

なお、以下に示す内容は学力の特定の一部であること、また、学校における教育活動の一側面であることを御理解くださいますようお願いいたします。

1 令和6年度全国学力・学習状況調査について

令和6年4月18日、下記のような内容で全国一斉に小学校6年生を対象として実施されました。調査内容は、次のとおりです。

(1) 教科に関する調査（国語、算数）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等
調査問題では、①と②が一体的に問われています。
(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
※学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関して調査されています。

2 教科に関する調査結果から全国平均正答率と比較して見える本校児童の姿

(1) 国語について

- ・本校の国語の全体の平均正答率は全国の平均正答率と比較して、同程度でした。
- ・「知識及び技能」における「我が国の言語文化に関する事項」、「思考力、判断力、表現力等」における「読むこと」については、全国の平均正答率を大きく上回っていました。
- ・登場人物の心情などについて、描写を基に捉えることができるかどうかをみる問題においては、全国の平均正答率と比較して、大きく上回っていました。
- ・「知識及び技能」の「情報の扱い方に関する事項」については、情報と情報との関係付けの仕方、語句と語句との関係の表し方を理解して使うことについて、課題が見られました。
- ・「聞くこと、話すこと」については、目的や意図に応じて、話題を決めたり、集めた材料を分類したり関係付けたりして内容を検討したり、伝えたいことを明確にしたりすることについても課題が見られました。
- ・文の中における主語と述語との関係を捉えることができるかどうかをみる問題においては、全国の平均正答率より大きく下回っていました。

(2) 算数について

- ・本校の算数の全体の平均正答率は全国の平均正答率と比較して上回っていました。すべての領域で全国の平均正答率を上回っていました。
- ・「図形」については、出題の趣旨「直径の長さ、演習の長さ、円周率の関係について理解しているかどうかをみる」問題において、全国の平均正答率を大きく上回っていました。
- ・「データの活用」については、出題の趣旨「折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる」問題において、正答率は全国の平均正答率と同程度でしたが、無回答率が10%を超えていました。
- ・角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由について記述する問題において、全国の平均正答率を若干下回っていました。
- ・問題全体としては、「知識・理解」を問う問題と比べると、「思考・判断・表現」を問う問題の正答率が低くなっていました。

3 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査結果から見える本校児童の姿

- ・基本的な生活習慣「毎日、同じくらいの時刻に寝ているか」の項目については、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」の児童の割合が、全国の割合より5.2ポイント上回っていました。「毎日、同じくらいの時刻に起きているか」の項目については、全国の割合より0.9ポイント下回っていました。「朝食」の項目では、2.9ポイント下回っていました。
- ・家庭学習については、全国と比べて「一日当たりの勉強をする児童（1時間以上）」の割合は、平日は2ポイント、休日は4ポイント上回っていました。
- ・「家庭に本がある児童（10冊以上）」の割合は3.8ポイント上回っていました。
- ・「5年生までに受けた授業で、課題の解決に向けて、自分で考え、自分で取り組んでいた」の割合は、全国と比べて3.9ポイント上回っていました。
- ・「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができているか」の割合は、全国と比べて7.7ポイント上回っていました。
- ・次の以下の規範意識や自己有用感を示す事項については、全国平均を上回っていました。
「自分には、よいところがある」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」「将来の夢や目標を持っている」「人が困っているときは、進んで助けている」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」「人の役に立つ人間になりたい」

4 今後の改善策（児童の力をさらに伸ばすために）

- ・児童の実態に応じて、基礎的・基本的な学習内容の定着を図っていきます。
 - ・児童が、自分の問いをもって課題解決に向かう授業を行い、主体的に学習に取り組む態度の育成を目指します。
 - ・授業の中で、児童に考える場面や話し合う場面を多く取り入れるように工夫します。
 - ・自分の考えや意見、分かったことを自分の言葉で表現する活動を、算数を中心に各教科に取り入れていきます。
 - ・児童同士の関わりを大切にして、互いを認め合う場の設定を意識して指導していきます。
 - ・学習したことを日常生活の具体的な場面に結びつけて考える場を設け、生活にいかすことができる力を目指します。
 - ・電子黒板やデジタル教科書のさらなる有効活用に加え、タブレット等ICT機器の活用を継続し、より分かりやすい授業を目指します。
 - ・「家庭学習重点週間」を今後も継続することで、自分のがんばりを振り返り、がんばろうとする意欲の継続を図るとともに、学習規律や生活習慣の定着を図ります。
- ・家庭でも次のようなことに心がけてください。

1 家庭での学習時間をつくってください。

【学習時間：学年×10分+10分としております。

1年生 20分、2年生 30分、3年生 40分、4年生 50分、5年生 60分、6年生 70分】

- ◎学習する時間や場所を決めて取り組ませることで学習習慣を身に付けさせてください。
- ◎タブレットやスマートフォンでのSNSや動画、テレビをみる時間やゲームをする時間を決めて、長時間にならないように声かけをお願いします。
- ◎自主的な学習にも取り組むよう励ましてください。

2 生活のリズムを整え、お子さんとのコミュニケーションの時間を大切にしてください。

- ◎「早寝・早起き・朝ごはん」をがんばるように声かけをお願いします。
- ◎お子さんががんばったことやよくできたことを、ほめてください。
- ◎読書をするように声かけをお願いします。

【本校の目標冊数：1・2年生：150冊 3・4年生：100冊 5・6年生：80冊】